

## 原発「新安全基準」骨子案に対する意見

2013年2月27日

新日本婦人の会

福島原発事故の原因究明も収束の対策も尽くされていない現状で、原発の「新安全基準」を決めること自体に無理があります。新基準の策定よりも、地震による影響、溶融燃料の状況、格納容器破損の状況などを把握し、事故の全容を解明することを優先すべきです。このような状況での「新安全基準」の決定は、また、地表に活断層の「露頭」が現れていなければその上に原発設備を設置できるとしたこと一つとっても、停止中の原発の再稼働や新增設のためと思わざるをえません。

さらに、今回の新基準は議論のすすめ方があまりに拙速です。意見募集についても、検討内容や骨子案について、国民への周知が十分になされていないことは問題です。骨子案だけでもぼう大な量で、専門用語が多用され、市民から意見を聞こうという構えがあるとは到底思えません。原子炉施設の設計、シビアアクシデント、地震・津波対策について、専門家から様々な問題点が指摘されています。本来ならば、検討状況や論点について説明の場をもち、広く専門家および国民の意見を聞く機会を設けるべきです。パブリックコメントの期間が3週間というのは短すぎます。

新基準を、原発の再稼働や新增設にお墨付きを与える、新たな「安全神話」とすることは許されません。いまだに収束しない福島原発事故は、原発というものが未完成の技術であり、いったん事故が起きればコントロールできなくなる危険性があることを証明しました。再稼働はやめ、いまある原発はすべて廃炉にむけてすすめるべきです。